様式1 # 令和3年度　山梨県立農林高等学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	『誠実の人となれ』の校訓のもと、自主・自立・連帯の精神と実践力を養い、社会の発展に貢献する人材を育成する。

山梨県立農林学校校長　　古郡　文春

本年度の重点目標	
	1　農業専門高校として、「生命」「環境」「食」を育む教育を主体とし、「夢」と「志」を持ち、新しい価値の「創造」に向けて、たくましく、しなやかに未来を拓く人材を育成する。
	2　学習に対する意欲と主体性、学び・わかる喜びに根ざした確かな学力を育成する
	3　自らを律し、他者を思いやる心、望ましい人間関係が築ける豊かな心を育成する。
	4　生涯にわたり、健康に生きる力を育成する。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

本年度の重点目標				年度末評価（2月1日現在）		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	特色ある学校づくり	スペシャリストの育成を図るための資格取得を推進 キャリア教育の充実を推進するために体験的な学習を推進 向上心、自主・自立、連帯の精神を養うための農業クラブ活動の充実 本校の歴史・伝統を理解するために「先人に学ぶ事業」を推進 農業大学校や山梨学院大学との連携を推進	アグリマイスター制度の取り組み推進・資格取得助成制度の活用 インターンシップ・デュアルシステムの実施・進路係、学年団、学科の連携強化 農業クラブ活動の推進・プロジェクト学習の推進 白磁の人読書感想文の取り組み推進 先人の生き方をとおして自己を見つめる教育の推進 地域の移り変わりと学校の歴史探究への取組推進 学校設定科目「地域と農業Ⅱ」「アグリビジネス」の充実・連携会議の推進	・資格取得の取り組みでは難易度の高い資格へのチャレンジを指導に組み込まれ、生徒の意欲的な学習活動につなげることができている。 ・特にデュアルシステム選択者の専門性を生かした進路実現が図られている。 ・農業クラブ活動については、生徒の専門学習の成果を丁寧に見取り探究活動を活性化していく部分で課題がある。 ・先人に学ぶ事業では、花畳俳句大会において高校生の部で本校生徒が大会大賞に1名、特選に3名、入選13名が選ばれ大きな成果を上げた。 ・農業大学校とのカリキュラム連携科目である「地域と農業Ⅱ」については予定されていた時間の中である程度目標を達成できたが、科目選択者に対する明確な動機付けが必要である。また、経営感覚を身に付けるための単元を科目「アグリビジネス」と効果的に連携させていく必要がある。	B	・アグリマイスター制度及び農業クラブ特級申請の充実に向けた各学科における取り組みを強化し、生徒が3カ年を見通して計画的に資格を取得できるよう指導する。 ・専門教科の各科目の単元にプロジェクト学習をバランスよく配置するとともに横断的な視点で学びを深められるようプロジェクト学習指導に関する一教員一実践を実現する。 ・先人に学ぶ事業においては本校が輩出した俳人への理解を深める中で多くの生徒を入賞に導くことができた。次年度においては俳句、川柳への取り組みを継続する中で、事業担当と国語科が連携を強化する中で教育効果を高めていく。 ・農業大学校とのカリキュラム連携の在り方を再確認するとともに、これまでの成果や課題を整理する中で、望ましい科目運営について検討していく。
2	学習指導	思考力・判断力・表現力の育成を図るための主体的・対話的で深いまなびの実現に向けた授業の推進 知識の定着を図るために、計画的な授業計画の推進 指導教材等の共有化と授業研究の効率化 学習意欲の向上を図るための多様な評価方法の開発 基礎学力の向上と家庭学習習慣の定着を図るための学習指導の開発	相互授業参観及び授業アンケートの実施 学び・やり甲斐・ACTIVEプロジェクトの取り組み推進 やまなしスタンダードの推進 「授業・学校づくり」・「ICT活用型教育」の推進 校内研究・研修会の実施 「高校生のための学びの基礎診断」の実施・分析	・生徒が得た知識や技能の活用場面をバランスよく取り入れる授業の視点では年間学習指導計画や評価規準の作成、授業づくりの面で改善が必要である。 ・既習事項を確認しながら自己の学びを振り返る指導が不十分である。次回への学びに必要な学習内容について全ての生徒が確認点検できるよう学びの流れを可視化する。 ・観点別評価の中の「思考・判断・表現」の能力を評価する授業づくりに力を入れる必要がある。 ・家庭学習習慣の定着については、学校評価アンケート結果を見ても改善に向けた取り組みの強化が必要である。保護者の協力を得る中で対応していく。	B	・新学習指導要領の完全実施に係る「指導と評価の一体化」の取り組みにおいて全ての教員がこれらを熟知し授業づくり（指導と評価の計画書作成）に向けて周到に準備していく必要がある。 ・授業と家庭学習の連携と自学自習の習慣化が課題である。学びの到達点を教師と生徒が十分に共有する必要がある。 ・ICT環境を活用して生徒が到達目標を意識しながら自ら学び取る場面を創出していく必要がある。 ・今未来手帳による自己分析と目標設定を今後も継続していく。
3	進路指導	早い段階で生徒・保護者の進路希望を把握し、組織的な指導体制を充実 HR・学年・学科・進路指導係などの連携を密にし、組織的に進路指導の充実 生徒の希望に応じた企業の斡旋や進学先に対して積極的にサポートし進路実現を充実 生徒一人ひとりのマナー・コミュニケーション能力を高めるために外部講師等と連携を推進	進路希望調査・個別懇談の実施 インターンシップ・デュアルシステムの実施 進路ガイダンスの実施 総合的な学習（探究）の時間の推進	・進路指導に係る学校評価アンケート結果では昨年と同様に、3年生及びその保護者から満足のいく結果が得られている。 ・学科による専門教育の成果が意欲的な学習活動につながり、学科に関連する進路を実現している。 ・オンラインによる進路ガイダンスも含め計画した内容をすべて消化することができた。 ・キャリア発達に向けた能力向上の面では学校行事や関連科目との横断的な視点が今後も必要になる。	A	・保護者相談窓口を充実させニーズ等を確実に把握し整理し、これらを進路指導につなげていく。 ・科目「デュアルシステム」を選択する生徒の増加に向けて動機づけを行い地域に根差した産業人の育成につなげていく。 ・進路ガイダンスの案内を学校ホームページや生徒あてメールを用いて丁寧に発信していく。保護者ガイダンスについても生徒ガイダンスとの歩調を合わせながら実施できるようにする。 ・協働的な活動場面を設定し、生徒が自ら探究活動に取り組めるようその学びをサポートする指導体制を整える。
4	生徒指導	組織的な生徒指導を確立するために全教職員が共通理解のもと指導 生徒理解を深め、安心して学べる環境づくりを推進 生徒の悩み・相談に丁寧に接し、教育相談体制を充実 三者懇談・家庭訪問等を積極的に実施し、保護者との連携・協力体制を充実 「自主・自立を育む指導」に心掛け、意欲的な姿勢で自ら学ぶ教育を推進	校内研修会（含む特別支援研修）の実施 関係者会議の実施及び外部機関との連携 アンケートの実施・HR活動の充実 個別懇談の実施 生徒会活動の推進	・常に生徒指導上の課題について職員間の連携が図られている。また、各学年に配置された生徒指導担当職員が組織の中で機能している。 ・関係機関への相談がタイムリーに行われ早期の課題解決につなげられている。 ・生徒や保護者からの相談に対して保健相談係が当該学年団と連携し、課題解決につなげている。 ・生徒の学校評価アンケートの「面談が計画的に行われ適切なアドバイスを受けることができる」の項目では80.3%また、保護者の「学校は生徒を大切にする姿勢で指導に当たっている」の項目では84.7%高い評価を得ることができた。 ・新型コロナ感染のリスクを抑えるため学園祭のオンライン開催を成功させるため、生徒会役員を中心に主体的な活動を行った。	A	・基本的な生活習慣に向けては関係職員が組織的継続的に取り組んでいるが、生徒のルール違反も各所に見られる。これに向けては地道なケーススタディーを実施し問題行動抑止につなげていく。 ・SCやSSWとの緊密な連携のもと、その活用が更に促進されよう取り組む。 ・特別支援委員会前の情報共有を十分に行う中で、内容の焦点化を図り、緊急性のある課題への対応が遅延なく行えるよう組織力を高める。 ・生徒が協働して物事を創造できる場面設定を行い、その過程を支援できる指導体制を整える。
5	道徳教育 安全教育	健康で規律ある学校生活が送れるよう基本的な生活習慣の確立 夢と感動のある学び舎を実現するために、特別活動を推進 交通安全やいじめ・防災・防犯の指導を適切に行い危機回避・リスクコントロール能力を育む安全教育を推進 講演会などをとおして、自己の在り方・生き方について考えさせ、道徳教育を推進	マナーアップ運動の推進 体育・文化・委員会の活動の推進 いじめアンケート・学校評価アンケートの実施 総合的な学習（探究）の時間の充実	・生徒が時間を守る行動を習慣化させる指導を地道な指導を継続したことにより、遅刻件数が大幅に減少した。 ・コロナ禍で各種行事等が制限される中で、修学旅行も実施が危ぶまれたが、3年生は昨年中止となった修学旅行を12月に、2年生は方面を変更する中で12月に修学旅行を実施した。 ・ケーススタディーを盛り込んだ防災教育を継続している。 ・自他のかかわりや自己を見つめる講演会を通して多角的に自己を振り返る教育活動につなげることができた。	B	・生徒指導部が学年団と連携L5分前登校指導を継続し遅刻者減につなげているが、今後もこれを継続し、併せて生徒観察も充実させタイムリーな指導につなげていく。 ・昨年度の反省を生かす中で、コロナ禍であっても創意工夫により様々な教育活動を実施できた。今後も起こりうるリスクを想定しながら教育環境を整えていく。 ・ハザードマップの活用指導及び各種防災行動を生徒が自ら行えるよう指導を充実させていく。 ・道徳教材を充実させ効果的な活用を行う必要があるまた、多様性にかかわる内容も取り上げていく。

学校関係者評価

実施日　（令和3年2月10日）

評価	意見・要望等
4	・農業大学校や山梨学院大学との連携を始め、スペシャリストを養成するための資格取得助成制度を活用するなど、他校と一線を画す取り組みを高く評価する。 ・農業クラブ活動が生徒の課題解決の力を育むための教育の機会として生かされている。 ・原料生産から販売・流通までを一元的に学べるような教育環境が完成しつつある。今後の取り組みに必要な教育の条件を整理し、研究を充実させて欲しい。 ・社会が大きく変化する中で、これらに柔軟に対応していくための知識や技能の習得に向けて農林高校の特色を生かして教育の充実を図って欲しい。
3	・個々の生徒の個性や能力等の把握やそれらに応じた学習指導を展開する必要がある。 ・ICTを効果的に活用していくことで生徒の学びを保障していく必要がある。 ・コロナ感染防止対策を行いながらの授業を余儀なくされたが、ICT環境を積極的に活用して、対面授業とオンライン授業融合させた新しい授業の在り方についてさらなる研究を行っていく必要がある。 ・現在の状況を負の状態として捉えるのではなくICT環境を合理的に活用して今までにはない新たな仕組みづくりに取り組んで欲しい。
3	・「マイスター・ハイスクール」により得た教育資源を生徒のキャリア形成に生かしていく必要がある。 ・社会の動向に対して常に興味を持てる生徒の育成が必要である。今後は新たな職業や働き方の仕組みが大きく変化することが予想される。こうした社会の中で生き抜くために必要な力を身に付けるために魅力ある体験的な学習活動を取り入れ、将来の職業を意識した学びにつなげていくことが大切である。 ・教員も生徒もICT機器等を使いこなす力を向上させ、教育に幅や深みを持たせていく必要がある。
4	・SNSによるトラブルが社会問題としても顕在化している。生徒がこれらのトラブルを回避できるよう指導を工夫していく必要がある。また、SNS等の利用方法についてはトラブル防止の観点からも授業を含め教育活動の中で幅広く扱う必要がある。 ・定期的にいじめや交通マナー等のアンケートが実施され、丁寧な指導が行われている。生徒の規範意識向上に向けて、アンケート結果を生かした取り組みにつなげて欲しい。
3	・今年から成人年齢が18歳に引き下げられることを踏まえ、より高い倫理観と責任感の醸成につながる教育を実践している。これに関しては新たな生徒指導上の課題を想定しながら学校体制を整えていく必要がある。 ・特別活動の実施にあたてっは、生徒の心身の成長を適切な時期に見取ることができるよう教育活動の成果をまとめるとともに、これらを生徒が自らを振り返る教材として活用できるよう工夫する必要がある。 ・防災教育にハザードマップのデータ閲覧及びその活用にICTが取り入れられており先進的な指導を実践している。自然災害時に生徒が自ら危機回避行動を行えるよう防災教育の充実を図って欲しい。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。